

ハンス・エンゲルベルツ元書記長の追悼にあたり



2015年4月12日(日)、ハンス・エンゲルベルツ元書記長が71歳の若さで他界したという悲報がPSIに届きました。

エンゲルベルツ氏は1981年12月にシンガポールで開かれた第22回PSI世界大会で書記長に選出され、一度も対抗を受けることなく数回の再選を果たしてきました。PSIの100周年を記念して2007年に開かれたウィーン世界大会では、PSI書記長を退職し、26年以上の活躍に終止符を打ちました。

活動的で明確なビジョンを持っていたエンゲルベルツ氏は、在任中、世界を揺るがすさまざまな出来事を経て組織をリードしてきました。1千万人以上の組織成長を果たし、退職時のPSI加盟人員数は2千万人にまで達しました。

「ハンスは労働者階級出身の誠実な人間でした。不正が嫌いな性分でした。情熱的ですが、時には強い一面も見せました。常に進歩的な運動に賛同し、世界の民主的組合をいつでも支援する心構えがありました。ここ数年世界を周った際は、世界のどこを訪れてもPSI加盟組合がハンスの様子を尋ねてきます。まだ彼と連絡をとっていた方も多かったことと思います。彼は偉大な国際主義者であり、組合活動家でありました。彼がPSIに残した遺産を心より称えたいと思います」と、ローザ・パヴァネリPSI現書記長は語ります。

エンゲルベルツ氏は1943年にオランダで生まれました。15歳で海洋船舶の食料庫で働き始めました。学問は独学で身につけ、夜間授業を受けました。国の大学入学試験を経て、経済学と法学を学びました。生まれつき語学の才能があり、母国語のオランダ語のほか、英語、フランス語、ドイツ語、スペイン語が堪能でした。

ハーグの商工会議所に勤務していたころ、彼は労働組合運動に積極的に参加し、1976年から1981年末までは、オランダ公務部門労働組合、AbvaKaboの全国オフィサーとして、郵便労働者の交渉を担当しました。

労働権の擁護においては、活発でたゆまぬ献身を続けました。そうした彼の精神は多くの海外現地訪問にも反映されています。トルコや韓国では投獄中の労働組合活動家を訪れ、彼らの解放を求めて、政府と自ら会合したり、働きかけを行ったりしてきました。また、PSI南アフリカ加盟組合の強力な支持者でもあり、組合との密接な協力のもと、アパルトヘイトの廃止に貢献しました。



労働組合界における PSI の立場を拡充させようという決心が固く、グローバルユニオン・フェデレーションの強力な支持者として、公共部門に具体的に関わる共通の問題に、協力して取り組んできま

した。

在任期間の初期には、PSI は本部をロンドンから、国連機関、とくに ILO に近いジュネーブ郊外に移しました。

エンゲルベルツ氏は女性の労働権推進に欠かせない存在でした。PSI 世界女性総会の第 1 回目が 1984 年にニューヨークで開かれ、その後、現在の PSI 世界女性委員会が設置されています。また、彼が LGBTI 労働者を誰よりも先に支援したことも言及に値するでしょう。彼の貢献は現在も生きています。



ベルリンの壁が 1989 年に崩壊した頃、第 24 回 PSI 世界大会がジンバブエで開かれていました。旧ソ連の解放をきっかけに、旧ソ連圏にあった新旧の組合が、PSI に加盟し、加盟が大幅に増大しました。エンゲルベルツ氏は、中東欧に存在していた組合の加盟と新たな組合との協力を積極的に推進しました。

1993 年に EU が発足すると、EU の監視と密接な協力を行う小さな事務所をブリュッセルに設けました。これが現在の欧州公務労連 (EPSU) です。エンゲルベルツ氏は、地域化の動きを進め、欧州以外の地域でも PSI の認知度を高め、PSI を真に世界的な組織に成長させました。

エンゲルベルツ氏が労働組合で果たした功績は枚挙にいとまがありません。彼については、数えきれないほどのストーリーと逸話があります。確かな信念を持った労働組合活動家であり、立派な人間であったエンゲルベルツ氏の話は、今後何年も語り継がれることでしょう。

彼の死は世界各地の人々、公共部門の労働者と組合員、彼と何年もの間共に取り組んだ職員、また彼が設立を助け現在まで力を養ってきた組織にとって衝撃だったことでしょう。

エンゲルベルツ氏のご家族の皆さまに心からお悔やみ申し上げ、ご冥福をお祈り申し上げます。彼の死はとても惜まれることでしょう。しかし国際労働組合運動において、彼の名は永遠に記憶されることでしょう。